

伊那谷リニアバレーNEWS

～長野県にリニアがやってくる！～

VOL.11 令和6年5月31日発行
長野県 建設部 リニア整備推進局
TEL:026-235-7016
FAX:026-235-7482
E-MAIL:linear-kyoku@pref.nagano.lg.jp

■ ガイドウェイ側壁製作保管ヤードの仮囲いに子どもたちの絵が飾られています！

高森町と喬木村にある、ガイドウェイ側壁製作保管ヤードの仮囲いに、地元子どもたちがリニア開業後の未来の暮らしを想像して描いた絵が飾られました。この企画は高森町、喬木村の両町村からJR東海と施工者である清水建設に対し呼びかけがあり実現し、殺風景だった仮囲いが明るい雰囲気になっています。飾られている絵の中には、地元特産品である市田柿やいちご、リニア中央新幹線が伊那谷の自然に囲まれている様子が描かれており、子どもたちの想像力豊かな作品の数々を見ることができます。絵は令和5年12月から展示されており、当分の間公開される予定です。みなさんぜひ一度、足を運んでみてください。



仮囲いに絵が展示されている様子(喬木村)



仮囲いに絵が展示されている様子(高森町)

■ リニア中央新幹線建設促進飯伊地区期成同盟会と三遠南信道路建設促進南信地域期成同盟会の定期総会が行われました！

2月9日(金)、飯田市内で三遠南信道路建設促進南信地域期成同盟会とリニア中央新幹線建設促進飯伊地区期成同盟会の定期総会が合同で開催され、総会決議では、三遠南信自動車道とリニア中央新幹線は、南信州地域のみならず、長野県と三遠南信地域の一体的な発展を目指す上でも重要な社会基盤となることが改めて確認され、「三遠南信自動車道の早期全線開通をめざす」と「リニア中央新幹線(東京・名古屋間)の早期開業をめざす」との内容が採択されました。

三遠南信自動車道は昨年5月に青崩峠トンネルが貫通し、リニア長野県駅(仮称)の駅舎本体工事が令和6年10月以降に開始される予定となっているなど、目に見える形でそれぞれ整備が進み、三遠南信自動車道開通・リニア中央新幹線開業への地域の期待も高まっています。

■リニア開業を見据え伊那谷でサイクルツーリズムを推進しています！

一般社団法人長野伊那谷観光局では、自転車の活用が伊那谷地域の自然や文化を身近に体験でき、体を動かすアクティビティとなると考え、リニア中央新幹線の開業による伊那谷地域の将来的な交通手段の変化を見据えて、様々な施策を進めています。これまで周遊マップの作成や、サイクルツーリズムガイドの養成などに取り組んできており、令和5年度は地域の方を交えたサイクルツーリズムを推進するチームを発足し、伊那谷の暮らしに近づける観光として、ガイド付きの3つの体験プログラムの概要をまとめました。地域の今ある身近なコトやモノなどが観光資源になると考え、今後商品化に向けて、自転車を通して地域の魅力を発信していきます。



実際に試走している様子

長野伊那谷観光局ではサイクルマップを作成しております。ぜひ、サイクリングにご活用ください！

URL : <https://www.inadanikankou.jp/notice/page/id=1847>

■“教えて！リニアのリアル”長野県内の工事の様子を動画で分かりやすく解説！

J R東海と飯田ケーブルテレビでは、現在リニア中央新幹線の番組「教えて！リニアのリアル」を制作しております。トンネル掘削作業の様子における発破シーンをはじめ、普段見ることができない工事現場の最前線の様子や、現場で働く関係者の姿、地域の皆さまの生の声等、現場で起きている「リアル」を感じることができます。飯田ケーブルテレビでも放映された後、J R東海の



Youtube チャンネル（※）でも公開されておりますので、皆さんもぜひご視聴ください。

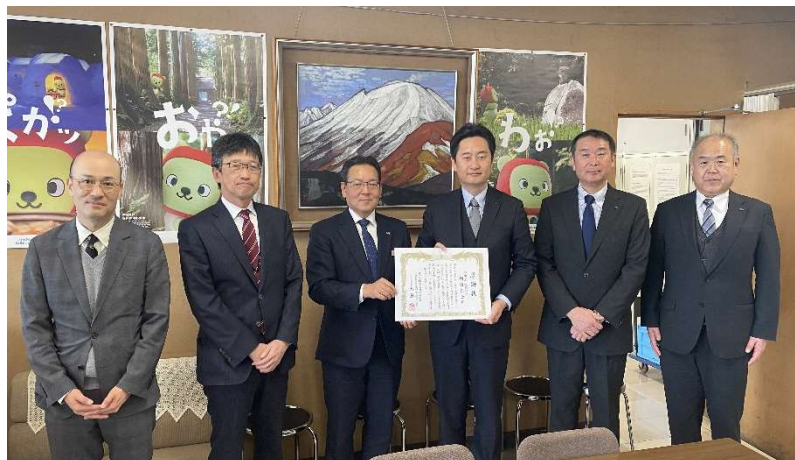
※【J R東海】リニア中央新幹線チャンネル↓

URL : <https://www.youtube.com/channel/UCgsDr4sYSK4xzGVSqSLc0Hw/videos>

■リニア中央新幹線の用地協定が終了したことによりJR東海から感謝状をいただきました。

全国新幹線鉄道整備法に基づき平成27年度から9年間、長野県が受託した南信州地域の町村部と南木曾町のリニア中央新幹線建設に係る用地取得について、令和6年3月31日をもって委託協定が終了することに伴い、3月21日（木）長野県庁にてJR東海から感謝状が交付されました。

用地取得率は令和6年3月15日現在で93.9%（権利者ベース）に達しており、残りの用地取得についてはJR東海が業務を引き継ぎ、継続して取り組む予定となっています。



■伊那谷自治体会議開催！ 未来志向の取組について意見交換を行いました。

令和6年3月27日、「リニア中央新幹線を地域振興に活かす伊那谷自治体会議」をオンライン形式で開催。国がリニア中間駅（神奈川県内、山梨県内、長野県内及び岐阜県内）予定地を始めとした周辺圏域の取組を支援するために、関係府省による会議を1月に設置しており、長野県が提案している地域活性化方策について説明しました。県としては、伊那谷地域の特性・強みを活かした実証都市圏域を形成し、多極分散型の新たなモデルを地域の皆さんと目指すこととしています。

会議では、参加いただいた首長の皆様方から、「より個別具体的な固有名詞を出しながら、国に説明しないとインパクトが弱い」というご意見もいただいております。今後、より具体化した内容に精査して、国に提案していく予定です。伊那谷地域が民間投資を呼び込む国際水準の実証フィールドとなれるよう、圏域全体で力を合わせて取り組んでまいりましょう！

■初めての全面公開によるトップ会談が実現！

令和6年4月22日（月）長野県庁内でJR東海丹羽社長と長野県阿部知事が初めて全面公開による会談をしました。

早期の品川・名古屋間の整備及び開業時期の明確化と県内工事の早期推進、工事の安全確保と地域の皆様とのコミュニケーション、環境への配慮、発生土・要対策土の対応、工事車両による住民負担の軽減などについて意見を交わしました。

阿部知事は、長野県駅を中心とした伊那谷や木曽地域の活性化に向けたJRグループ全体での取組みと、今回の開業時期延期に伴い影響が出る地域が元気になるような施策の取組みをお願いし、丹羽社長は、地域振興には社内の力を結集して協力することを回答されました。



トップ会談の様子

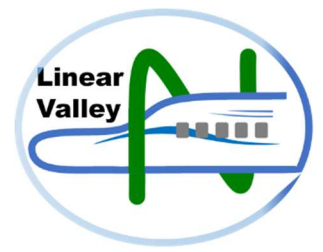


握手する丹羽社長(左)と阿部知事(右)

URL : <https://www.pref.nagano.lg.jp/linear-shin/kurashi/kotsu/linear/ikenkoukan/290419ikenkoukan.html>

県リニア整備推進局では、リニア中央新幹線開業に向け、気運の醸成を図るため、資料などへ使用できる右のロゴマークを作成しました。

今後、資料に貼付するなど積極的に使用していくほか、伊那谷リニアバレーNEWSを読まれる皆様にも、使用していただきたいと思います。利用をご希望の場合、担当までご連絡ください。(連絡先:026-235-7016)



©長野県